

令和7年度 第27回「白山市ミライ会議」会議概要

※会話の順番を入れ替えたりまとめたりしています。
※制度などの説明は、会議開催時点のものです。

日時:令和7年11月25日(火) 19:00～

場所:出城コミュニティセンター

参加者:11名



- ◆ イベントや防災訓練への子どもたちの参加が増えており、うれしく思います
- ◆ 親世代の方々にも、ぜひ協議会の運営組織に加わってほしいです

(参加者)

「子ども」というキーワードで言いますと、夏祭りなどのイベントに多く参加してくれています。特に今年は、これまで少なかった防災訓練への参加が増えたと感じました。

住み続けたい地域にするには、子どもだけでなく親世代もイベントに参加し、さらに協議会組織にもっと入ってもらえると良いですね。課題とまでは言いませんが、そのように感じています。

(参加者)

壮年会は50代から60代が中心で、これまで全行事の運営を担い、横のつながりもありました。しかし、後継者が減り、青年団や婦人会もなくなりました。

今後危惧するのは、老人会やサロン出城といった既存組織も高齢化で存続が危ぶまれることです。そのため、新たな組織作りを働きかけたいと考えています。

○市長

地域コミュニティ推進交付金は、主に何に使われていますか。他地区を回ると、使い勝手が悪いという話も聞きますが、いかがですか。

(参加者)

交付金は各行事に割り振り、参加品や備品の購入などに幅広く使っています。

文化フェスの展示パネルがなく、他地区から借りるのが負担でしたが、高価なものなので困っていました。しかし先日、博物館から譲り受けました。ありがとうございます。

◆ 関係団体が多い文化フェスティバルも、皆の協力で運営できています

(参加者)

文化フェスティバルは関係団体が最も多い催しです。子ども会や出城夢クラブなどにもお手伝いいただきました。今年初めて担当し、誰に何を頼めばいいか分かりませんでした。皆さんに協力していただき成功できました。分からないことは、ここにいる方々に聞けば教えてもらえます。

(市長)

文化フェスティバルを拝見しましたが、子どもたちの作品やジオパークの調査などがありましたね。他地域では後継者不足の話も聞きますが、初めて担当されても周囲のサポートがあったのは、日頃からの関係性でしょうか。

(参加者)

さまざまなサークルがあり、個々に協力してくれるスタイルです。最初は何も分からず「助けて」と頼みましたが、夏祭りや他のイベントで顔を合わせ、連携している部分があるので、ツーカーで通じる面もあります。新しく入った人が、町内会長のように任期で終わるのではなく、継続して参加してくれることが今後非常に大切になると思います。

(参加者)

解散した青年団のOBを中心に活動しているメンバーが20～30人いますが、会長を3回した関係で夏祭り委員長を引き受け、3年経ちました。資金をかき集めて何とかやっていますが、もっと予算があればと思います。

一昨年まではエイトマンさん呼びでしたが、今年は千代野出身の若手歌手「The Morning Glory」をお願いしました。予算があれば有名な方を呼んで盛り上げたいですが、なければ節約して工夫します。

(参加者)

先ほどの交付金の使い方のお話で言うと、ゲストを呼ぶ費用や電気設備など、目玉となる部分に使えないというところがあります。

そうした費用は、各町会から集める夏祭り負担金などで何とか捻出しています。社会体育大会なども同様に、個別行事ごとに集金するスタイルになっています。

◆ 毎年テーマを設定し、住民が主体的に参加できる防災訓練を行っています

(参加者)

令和7年度は大きく3つの行事を行いました。防災講演会、親子防災体験会、そして9月に毎年実施している出城地区の防災訓練です。

防災講演会では、人口増加に伴い一次避難場所の見直しをワークショップ形式で行いました。21町のうち7、8町が見直しを進めています。能登半島地震の際、石灯籠が倒れるなどの危険箇所があったためです。

出城地区の防災訓練では、蕪城小学校に500人弱が集まり、コミュニケーションの一環として人文字を作りました。子どもを基準にしたため少し小さくなりましたが、全員参加で行えました。

また、親子防災体験会も実施しました。去年は子どもだけで多目的ホールに宿泊し、段ボールベッドを体験しましたが、今年は親子で募集したところ集まりが悪かったです。翌日の防災体験会では、初期消火や起震車体験、天ぷら油火災実験などを行い、子どもたちも楽しみながら防災を学びました。

去年は「自助・共助」をテーマに、自分たちの町は自分たちで守るという意識で避難所設営を行いました。今年は初動体制の強化として体験型訓練を実施しました。来年は「災害関連死ゼロ」を目指し、工夫を取り組みたいと考えています。

(市長)

子どもたちも参加するなど、いろいろ積み重ねていられていますね。去年の能登半島地震の際も、避難者を松任総合運動公園で受け入れましたが、災害関連死について一番心配していました。

(参加者)

医療機関のクリニックと協定を結んだり、看護師の協力を得て衛生面の対策を行ったりしています。地区のクリニックの先生にも防災訓練に参加していただきました。

(市長)

地区で医師と連携しているのですね。非常に熱心な先生もいらっちゃって、我々もよくアドバイスをいただいています。学校の養護教諭などとの連携も重要ですね。

(参加者)

そうですね。出城地区では防災委員会の名簿にすべて入っていただいております。百数十人の組織になっています。

◆ 「男の料理教室」で、これまで参加のなかった新たな層が来てくれました

◆ 事業には広く参加してほしいですが、町内会ごとの温度差を感じています

(参加者)

コミュニティセンターではセンター長を中心に魅力的な行事を開催しています。体協や文化フェス、夏祭りなど、子どもからお年寄りまで楽しめる工夫がされています。蕪城小学校の子どもたちの参加もあり、コミュニティとして充実していると思います。「男の料理教室」の際は、親子連れなど12名ほどが集まり、私が講師として魚のさばき方を教えました。センター長の提案や事務局スタッフの頑張りに感謝しています。うまく回っていると思います。

(参加者)

壮年会がなくなったので、代替りの組織を作るきっかけになれば、その年代の人が来たらいいなということで企画しました。

(参加者)

町内会によって若い方が多かったり高齢だったりカラーが違うため、行事への参加者に偏りがあるように感じます。本来は地区全体の行事なので、もっと広く参加してもらいたいという思いはありますが、町内会ごとの温度差を感じるどころです。

(参加者)

コミュニティセンターが地区の中心から離れた南側にあり、駐車場もないため、北側から来る方が少ないですね。出城地区には大きな公園もなく、イベントの場所が限定されてしまいます。今から場所を確保して作ってくれと言うのも難しいとは思いますが。

(参加者)

私はスポーツ推進員もしていますが、グラウンドゴルフやモルックなどができる多目的な広場がほしいという意見があります。現状は遠くの公園まで行く必要があり、小学校も予約で埋まっています。

以前のバレー大会で怪我が続いたので、今はワンバウンドバレーやモルックなど、子どもからお年寄りまで安全に楽しめるニュースポーツを取り入れています。出城地区は1万人いますので、ぜひ多目的に使える公園をお願いしたいです。

(市長)

やはり、いくつかの地区では公園の話は出ていますね。

◆ 顔の見える関係は強みですが、次世代への継承には課題を感じています

(参加者)

昨年、町内会長を務めてみて、役員の大変さやしがらみなど、やって初めてわかることができました。本当に多くの人に支えられていると感じています。

壮年会などの組織が縮小するのは時代の流れで、面倒ならやめればいいと最初は短絡的に考えていました。でも、いざやめようとするのが難しく、周りの頑張る姿を見ると簡単にはいきません。辞め方や引き継ぎは、どこも悩みどころですね。

会議の場だけでなく、懇親会などでざっくばらんに話して、他の町会の悩みや裏話を話したり聞いたりできる関係ができてきました。表向きの会合も、裏側のつながりも、どちらも大事だと痛感しています。

(市長)

皆さん助け合っていますね。出城地区がスムーズにしているのは、何か仕掛けがあるのでしょうか。

(参加者)

メンバーの入れ替わりはありますが、顔を合わせて話す中で「顔の見える関係」ができているのが良いのだと思います。そこにセンター長のアイデアが加わって、うまく動いています。

ただ、イベントは年々良くなっていますが、これを5年、10年と続けていくには、次世代の人材にどう入ってもらうか、これから考えていかなければなりません。

◆ 地域コミュニティ組織の場で、町内会運営の悩みを相談できるのはありがたいです

(参加者)

町内会長として運営に悩みがありました。ここで皆さんも同じ悩みを持っていると知り、ホッとします。皆さんの話を参考にして町内会で実践しています。

以前はボウリングや夏祭りが盛り上がっていました。今年は町内会でバーベキューを行い、80名以上が参加しました。子どもから高齢者まで笑顔で楽しんでもらえました。これからもこの協議会を参考に、町内会を運営していきたいです。

(市長)

すごいですね。地区のまちづくりから学んで町内会運営に活かすという流れができているのは、素晴らしいことだと思います。

(参加者)

蕪城一丁目は73戸ですが、四丁目は150戸近くあります。昔は同規模でしたが、宅地化などで差がつかしました。運動会などで、倍以上の世帯数がある町内と同じ土俵で競うのはどうかと問題意識を持っています。成町などはさらに多いです。

(市長)

地区によって規模が違いますよね。簡単に調整できるものではありませんが、お気持ちはよく分かります。市全体で見ても、人口が多い地区と縮小している地区の差は課題です。どう人口を増やしていくか考えなければなりません。

(参加者)

地番変更や地区の境界変更で、例えば蕪城一丁目の範囲を広げたり、隣接する北安田の一部を編入したりすることはできないのでしょうか。

(市長)

区画整理事業などがあれば変わることもありますが、それでもなかなか簡単にはいきませんね。

◆ 通学路に危険な交差点があり、交通安全のための対応が必要です

(参加者)

今年の5月の連休過ぎから毎朝旗を持って交通誘導をしています。2月まで立っていた人がいなくなり、現場を見たらとても危険な場所だったので始めました。

実際に立っていると、子どもが轢かれそうになることがありました。片方の車が止まっても、対向車が子どもに気づかずに走ってくることもあり、間一髪でした。簡易的なものではなく、子どもの命を守るためにきちんとした信号機がほしいと考えています。

(市長)

交通安全の話ですが、交通安全プログラムを通じて学校や相木地区とも連携し、現場を確認するという仕組みがありますので、危険な箇所については学校とも話をしていかなければと思います。

(参加者)

巡回に来た先生にもそのことを伝えました。公園が集団登校の場所になっていますが、道を渡るのが危険なので、車が完全に行き過ぎるまで絶対に渡らせないようにしています。

また、小学校の方から自転車が猛スピードで出てきて、車も自転車も急ブレーキになることもあり恐ろしいです。いつか事故が起きると思うので、押しボタン式信号が必要ではと思います。私が立てば車は止まりますが、死角になると危険です。先週は、自転車が来ていたので車を止めたら、運転手に「子どもがいないのに止めるな」と文句を言われました。

(市長)

対向車が止まっていたら、見えなくても止まらなければなりませんし、交通弱者を優先するのは大切なことですよね。もちろん、自転車が交通ルールを守ることも重要です。

その交差点(市道中成・下成線と市道駅北中央通線が交差する交差点)は確かに危険だと認識していて、押しボタン式信号機の設置について警察に要望する予定です。

通学路に関しては、「白山市通学路安全プログラム」というものがあります。市や県の道路管理者や白山警察署、学校関係者などの関係機関で、点検を行い、必要な施策や改善を進めています。

もし該当箇所について要望がありましたら、町内会やPTAを通じて、学校へ要望書の提出をしていただければと思います。

◆ 子どもが地域の大人から褒められる経験は、とても得難いものです

◆ 地域に見守られ子どもは育ちますが、子ども会などの運営には苦労や課題もあります

(参加者)

地区行事に参加した子どもたちが、楽しかった、おじさんに褒められた、と話してくれます。このおじさんこう言ってくれたとか、ああ言ってくれたとか、そういう1対1のやり取りがすごく心に残るようです。

また、ホームステイ中の留学生も、夏祭りや文化フェスを日本らしいと感動しています。単なる地域イベントではなく、日本文化の継承としても貴重だと思っています。

(市長)

私もさまざまなお祭りを回りましたが、やっぱり大人が元気で楽しそうにしていると、子どもらがすごく活発に楽しくやっている様子がみられます。だんだん縮小してしまうと子どもの楽しみも減ってしまいます。

(参加者)

コロナ禍で各町内会の子ども会行事がなくなった時期があり、少しずつ復活していますが、町内会によって格差を感じます。共働きで役員の負担が大きいなどの理由で、行事を完全に戻すのは難しいのが現状です。

子どもたちに経験させてあげたいという思いはありますが、役員をやりたいから子ども会に入れたくないという親御さんも出てきています。一人でも抜ける人がいると、「なぜあの人はいいのに私はダメなのか」となり、役員さんが大変な思いをして説得している状況です。子ども会の存続自体が不安材料になっています。

(市長)

学校のPTAでも同じような話を聞きます。任意加入だからと入会しない人が増え、県単位でPTA連合会が解散したところもあります。そうすると、段々学校や地域の子ども会というコミュニティが崩れてしまいます。こういう交通安全を心配してくださる方とか、いろんな方がいて、子どもたちが育っていきませんが、地域コミュニティが崩れてしまうと、子どもの育ちにも影響出るのはないかと心配しています。

(参加者)

子どもたちは地域に守られて安全が保たれていると感じます。不審者情報やクマ情報など不安なことも多い中、登下校時に大人が立ってくれている安心感は大きいです。協力できるところは協力したいですが、生活にそこまでの余裕がない家庭ももちろんあり、全員が同じ考えではないので、そのバランスが難しいですね。

(市長)

今日の話合いで、皆さんが「子ども」をキーワードに、どう地域で育て、愛着を持ってもらうかを真剣に考えていることが伝わってきました。コミュニティが崩れることへの不安がある中で、こうしてご意見をいただけていることにも意味があると思います。今後も皆さんでアイデアを出して取り組んでいただきたいです。

(市長)

今日のお話をお聞きし、皆さんが地域づくりに真剣に取り組んでいることが分かり、大変うれしく思います。まだ課題もありますし、市として考えなければならない点もあります。

今度、各地域コミュニティ組織の取り組みを発表し合う「自慢大会」を企画しています。他の地域の活動を見て聞いて、良いところを取り入れて学んでいただければと思います。今日はありがとうございました。